

# 知的障害特別支援学校高等部における、生徒の進路実現に向けた 作業学習の在り方についての研究

田代高章\*、外館悌・中崎美智子・石川則子・安久都靖・高橋勝子・若林成三・

立原幸枝・菅原雅美・伊藤嘉亮・荒井貴宏・田口一步\*\*

\*岩手大学教育学部，\*\*岩手大学教育学部附属特別支援学校高等部

(平成 26 年 3 月 7 日受理)

## 1. はじめに

本研究は岩手大学教育学部附属特別支援学校高等部（以下、本校高等部）の作業学習「環境・サービス班」の実践を通して、一般就労等を目指す生徒の進路実現に向けた作業学習の在り方について探求することを目的としている。

本校高等部では、作業学習として通年で手織班、工芸班、受託班の3班で活動を行っている。本研究の「環境・サービス班」は、平成23年度から、通年で行っている作業班の中から一般就労等を目指す1～3年生の生徒を対象として、通年の作業班では経験できない作業や就労先の要請に対応した作業に取り組むことを目的に、食品加工作業、大学農場での農場実習、清掃作業を実施している。

また、平成24年度教育学部プロジェクト推進支援事業「知的障害特別支援学校高等部における、多様な実態の生徒の進路実現に向けた作業学習の在り方についての研究」において、「環境・サービス班」で大学農場での農場実習に取り組み、学校とは異なる環境であっても生徒が普段の学習成果を発揮する様子、天候による作業変更により生徒が臨機応変に対応する力を身に付けていく様子、学校外での活動を通し働くことに対する生徒の意識の向上が図られること、生徒の適性を見極める機会となることが成果として確認された。課題としては、「環境・サービス班」の成果と課題を生徒が日々取り組んでいる通常の作業学習にどのようにフィードバックしていくかということが挙げられた。今回の研究は、この先行研究も踏まえての取り組みでもある。

## 2. 実施内容と方法

今年度の「環境・サービス班」の対象生徒は、1年生A（男子：自閉症）、B（男子：自閉症）、C（男子：自閉症）3名、2年生D（男子：自閉症）1名、3年生E（男子：ADHD）、F（女子：広汎性発達障害・軽度知的障害）2名の計6名である。活動内容として、食品加工作業（5月）、大学農場での農場実習（10月、11月）、清掃作業（12月、2月）を実施する。この実践の中で、生徒の作業日誌、担当教員による記録、実習評価会議での評価、大学農場の先生方の評価から、一般就労等を目指す生徒の進路実現に向けた作業学習の在り方について検討する。

### （1）校内での食品加工作業の取り組み

校内において5月14～17日、21日、22日、24日の7日間実施した。参加した生徒は、A、B、C、D、E、Fの6名である。作業内容はチーズケーキ、杏仁豆腐、トマトピザ、イチゴムース、各種パンの製造と販売を行った。指導に当たっては、手順表で作業手順が見える形にする支援を行った。生徒は作業終了時に作業日誌で自己評価を行い、担当教員からの評価を受けた。

### （2）大学農場での農場実習の取り組み

①10月28日～11月1日の5日間実施した。参加した生徒は、A、B、C、D、Eの5名である。作業内容は果実や野菜の収穫・選別等である。生徒の様子や評価は同行した教員が記録した。

②11月15日、実習評価会議を本校高等部教員で実施した。個々の生徒の評価を行い、生徒の課題及び、普段の学習活動での具体的な取り組みについて検討した。

③12月19日、大学農場で生徒の農作業を担当した佐川了教授、渡邊学助教の両先生から聞き取りによる評価を得た。

(3) 校内での清掃作業の取り組み

校内で12月9日～11日の3日間、2月18日、27日の2日間実施した。参加した生徒は、A、B、C、D、E、Fの6名である。12月の実践は、本校教員によるほうきや雑巾の使い方の講習と教室清掃に取り組んだ。指導に当たっては、机や床に拭く順番や掃く順番をテープで示す支援を行った。2月の実践では、岩手県ビルメンテナンス協会からの派遣講師による講習と実技指導を受けた。講師から清掃作業での標準的な自在ほうき、雑巾、ダストクロスを持ち方と扱い方の講習を受け、階段清掃を行った。活動後は作業日誌で自己評価を行い、担当教員からの評価を受けた。また担当教員が活動の様子を記録した。

3. 結果

(1) 校内での食品加工作業の取り組み

食品加工作業の作業日誌から以下の結果を得た。

1、2年生は教員からの評価、3年生は自己評価と教員からの評価である。

1年生 A

1日目：手順表を見ながら材料・道具を揃え、作った。
3日目：手順表を見ながら進められるが、道具の片付けが不十分、片付けをしないまま次の調理に入った。
4日目：11：15に2種類終了。洗い物を流しに置くようになった。
7日目：3種類完成できた。

1年生 C

1日目：手順表を見ながら材料・道具は揃えた。一人で作業を進めることは難しかった。
2日目：手順表を見ながら進められない。一つ一つ確認が多く進まない。
3日目：確認は減ったが、作業が止まるが多かった。

※手順表だけを手掛かりに作業を一人で進められないため、今回はここで終了となった。

2年生 D

1日目：手順表を見ながら作れるようになってきた。
2日目：手順表を見ながら作った。
4日目：初めてピザを作った。トマトの切り方が難しい。
5日目：材料・道具を揃えられるようになった。販売がうまくなってきた。

3年生 E

1日目：久しぶりのサービス班だけど手順表を見ながらできました。(自己評価)
2日目：初めてのパン作りをしました。手順表を見ながら作るようにする。(自己評価) チーズパンの手順表を見て材料・道具を揃え、一人で作ろうとしていた。(教員の評価)
4日目：パンを少しうまくできました。(自己評価)
5日目：(ウインナーパンを) うまく巻くことができた。報告を忘れない。(自己評価)

3年生 F

1日目：生地をしっかりとできました。1分と間違えてやりました。気をつけます。(自己評価) 30秒を3分と間違えた。(教員の評価)
2日目：手順表を見て電子レンジのタイマーを間違えないで作ることができました。報告を大きい声でやるように気をつける。(自己評価) 昨日の反省を生かして作れた。(教員の評価)
4日目：しっかりと報告することができました。時間を見て作るようにする。(自己評価) ウインナーパンに時間がかかった。(教員の評価)
5日目：時間内に質の良いパンを作ることができました。(自己評価) とても質の良いパンを作れた。(教員の評価)
6日目：初めて、パンをしっかりと作るこ

ができた。(自己評価)  
レシピを見てほとんど一人でできた。(教員の評価)

## (2) 大学農場での農場実習の取り組み

農場実習の教員の記録、実習評価会議での評価、大学農場の先生から以下の結果を得た。

### ①教員の記録

2日目：全員、失敗もなく作業は行えたが、全体的に動作が緩慢であった。

3日目：E、Fは、作業に慣れておりスムーズに行えた。

4日目：座り作業だとEは集中力減。Dは独り言が多かった。

5日目：稲藁の片付けは、汚れるのが気になるのかEは手が止まりがち。A、Cは動き出すトラクターに近づいて危険であった。大豆の脱粒は、5人とも集中し取り組めた。Bは、昼休みにやることなく、興奮気味だった。

### ②実習評価会議での評価

#### 1年生A

成果：どんな作業でも一生懸命取り組めた。午前、午後でペース変わらず作業ができた。実習当初は指示を聞いていない様子だったが、指示を聞いて作業できるようになってきた。

課題：全体への指示は通りにくい。途中で指示されると時折苛立つ。制止の指示を聞けなかった。

#### 1年生B

成果：シート畳みなどで、他の人と協力してできる力あり。どんな作業でも一生懸命取り組めた。実習当初は指示を聞いていない様子だったが、話を聞こうとするようになった。

課題：休憩時間の過ごし方。効率的な作業の進め方。場にそぐわない、ふざけたような態度が見られた。

#### 1年生C

成果：話を聞けるようになり、他の人と一緒に取り組めた。しっかり理解してできるまで時間がかかるが、繰り返すことでできるようにな

る。休憩時間は一人で静かに過ごせる。話をする人の近くに行くようになった。

課題：作業スピードが遅い。指示が一回では入っていない。力が弱く、難しい作業もある。

#### 2年生D

成果：話を聞いて作業に取り組めた。

課題：複雑な手順では時折間違えることがあり、集中力が課題。畑での収穫作業では極端にペースが落ちた。まじめに取り組んでいるように見えない。

#### 3年生E

成果：忙しければ忙しいほど仕事に集中できる。周りを見ながら自分で仕事を探し良く働けた。昨年度に比べ、仕事に向かう気持ちが伸びてきた。何事にもまじめに取り組める。声掛けなどで意識させると、リーダーシップを発揮する場面もあった。

課題：一週間安定した気持ちで作業に取り組めない。

普段の授業での取り組みについて次のことを確認した。

1年生Aの作業途中で指示すると苛立つ点について：作業学習の中で、話を素直に受け入れ苛立たないことを毎回自分で○△で評価できるようにする。

1年生Bの休憩時間の過ごし方について：取り組める活動を準備し、休憩時間落ち着いて過ごせるようにする。

1年生Bの効率的な作業の進め方について：作業学習の中で、時間内に作る個数を設定し時間を意識した作業ができるように取り組んでいく。

### ③大学農場からの評価

挨拶・返事・指示理解について

挨拶は皆よくできていた。返事については「わかりましたか」「できましたか」の問いに対しては「わかりました」「できました」の返事ができていた。こちらから言えば、返事をするのができた。1年生はスタート時から比べると

話を聞く態度が少しずつ良くなった。指示理解の反応には差はあるが、概ね理解できているようである。

#### 作業について

リンゴの収穫や選果など、目に見える仕事は良くできていた。判断を要する作業は難しい生徒もいた（大根の収穫で太いものを選別して抜く、枯れた花だけ摘むなど）。

#### 作業態度について

作業態度は、みな素直で意欲的であった。

#### 生徒個々について

Aは話を最後まで聞かず始めてしまい、また修正しようとする手を振り払われる場面もあった。昨年度も来たDは昨年度よりも落ち着いて作業できていた。Eは一番しっかり対応ができていた。

### (3) 校内での清掃作業の取り組み

清掃作業の作業日誌、職員の記録から以下の結果を得た。

#### ① 12月の取り組み（作業日誌から）

##### 1年生 A

1日目：雑巾と自在ほうきの使い方を覚えました。（自己評価）

2日目：雑巾と自在ほうきを使うことができました。（自己評価）

二人で協力してできていた。（教員の評価）

3日目：とてもきれいに清掃でき、やり直しもしっかりできていた。（教員の評価）

##### 1年生 B

2日目：自分で考えて行動します。（自己評価）  
掃除の仕方はあっていたが、自分で考えて作業を進めることが難しかった。（教員の評価）

3日目：ほうきの使い方を覚えました。（自己評価）

##### 1年生 C

1日目：掃除の使い方を覚えました。自分で考えてやる。（自己評価）

2日目：自分で考える。（自己評価）

掃除の仕方がわかっているのだが、自分で考え

て行動することが難しかった。（教員の評価）

3日目：雑巾で黒いところをやりました。（自己評価）

道具は使えていたが、ゴミや汚れが残ることが多かった。（教員の評価）

##### 2年生 D

2日目：自在ほうきで紙を掃きました。ふざけて笑わない。（自己評価）

ふざける場面が見られた。（教員の評価）

3日目：きれいに掃きました。（自己評価）

掃き方がとても上手になった。（教員の評価）

##### 3年生 E

1日目：道具の使い方をうまくできました。話をよく聞いて作業する。（自己評価）

2日目：休まず掃除をしました。ごみを残さないようにする。（自己評価）

しっかり作業できていた。報告の声が出ていなかった。（教員の評価）

3日目：もう少し報告を忘れずに頑張りたいです。（自己評価）

良く動いて作業ができていたが、必要な報告がないことがあった。（教員の評価）

##### 3年生 F

1日目：掃除道具の使い方を覚えることができました。自在ほうきをあまり動かさないでやる。（自己評価）

3日目：きれいに掃除ができた。自分で考えて掃除する。（自己評価）

自分で考えて行動する前に、次の指示を聞きに来ることが多かった。（教員の評価）

#### ② 2月の取り組み（職員の記録）

##### 挨拶や返事

事前指導もあり、全員、講師に対して「よろしくお願いたします。」と入室と同時に話す。自己紹介もスムーズに行く。講師が説明していることへの返事は少なく、E、Fが少し返事をした程度。感想後にしっかり感謝の言葉を全員が言えていた。

話を聞く態度

Aは、ほお杖について話を聞く場面が多い、注意しないと無意識なのかやってしまう。Bは、講師の動きは見ていた。姿勢も良い。Cは、よそ見が多い。Dは、講師の動きは見ていたが、時折よそ見があった。E、Fは、きちんと集中して講師の動きを見ていた。

#### 説明内容の理解力

講師の説明→実際の活動の繰り返して取り組んだ。①自在ほうき②階段の掃き方③雑巾の使い方④ダストクロスの使い方の順番で行った。Aは、指示通りできていた。スピードも速い。Bは、非常にゆっくり。Cは、先に活動した3名の生徒のやり方を見ておらず、講師が修正することが多かった。動きは非常にゆっくりだった。Dは、指示通りできていた。スピードも速い。E、Fは、指示通りできていた。スピードがゆっくりだった。

#### 技能

##### 自在ほうきについて

Aは、最初、逆に掃いてしまったが、講師の修正に素直に従って掃くことができた。Bは、掃き方は上手だが非常にゆっくりだった。Cは、掃き方も講師の修正が最初から入る。Dは、先に活動した生徒のやり方を良く見ていたので、スムーズにできていた。Eは、持ち方も掃き方も一度の修正でできていた、若干雑な面があった。Fは、持ち方も掃き方もよくできていた。

##### 雑巾の絞り方について

Aは、雑巾の絞り方がきちんとできていた。バケツの上でタオルを開いたのはAだけだった。B～Fは、雑巾の絞り方がきちんとできていた。

#### 階段清掃

全員が教わった通りに階段の掃き方ができていた。Aは、途中持ち方を直されたが、素直に聞き入れた。最後にちりとりで、集めたゴミの取り方を教わったが、A、Cは手本を良く見ることができなかった。B、D、E、Fは手本を見て取り組めた。

## 4. 考察

### (1) 校内での食品加工作業の取り組み

作業日誌から、生徒が手順表という支援を得て、一人で作業を進めることができたこと、手順表の活用が難しい生徒は一人で作業を進めることに結びつけることができなかったことが読み取れた。このことから、手順表という支援を使った作業は、生徒が一人で作業を進めることにつながるが、手順表を活用するための指導と支援も必要であると思われる。また、一人で作業を進めるための手順表という支援は、就労後も有効な支援として就労先へつないでいけるものと思われる。

### (2) 大学農場での農場実習の取り組み

教員の記録、実習評価会議、農場の先生方からの外部評価から、作業態度の良好さについては概ね確認できた。指示理解については、A、B、Cの1年生は、実践のスタート時点で指示理解の難しさが指摘されていた。しかし、活動を通して話を聞こうとするようになり、指示を理解し活動できるようになってきたことが確認できた。判断が必要な作業については、その難しさが指摘されていた。これらのことから、指示理解については、取り組みを継続し、経験を積むことが生徒の指示理解の力を伸ばすことにつながると思われる。判断することについては、支援の仕方の検討と判断する力を付ける取り組みが、今後必要であることが言えるであろう。また、実習評価会議では、活動途中での修正を受け入れられない生徒、休憩時間をうまく過ごせない生徒について検討され、課題を普段の作業学習での具体的な取り組みに取り入れた。このことは、「環境・サービス班」の活動と普段の学習活動を結び付けるものであり、進路実現に向けた作業学習の効果をより高めていくものと思われる。

### (3) 校内での清掃作業の取り組み

作業日誌や教員の記録から、生徒が清掃作業の仕事で実際に使われる標準的な自在ほうき・雑巾・ダストクロスの持ち方や扱い方を、全体への説明と実際の活動を繰り返すことで覚えることができることが確認できた。しかし、今回、実際の

掃除に取り組んだ教室と階段を比べると、階段清掃では、教わった手順に沿って進められたことが記録されているが、教室清掃では自分で考えて掃除をすることを作業日誌で指摘されていた。これは、階段は形状がほぼ定型であり、掃除する範囲も明確である一方で、教室は広く、備品などもあるため、どこから始めるのか、部屋にある備品などをどうするのかなどの判断する力や考える力が必要であることが考えられる。このことから、清掃作業において、道具の持ち方、使い方だけではなく、作業を進めるには考える力が必要であり、その力を付ける指導や、考える部分を支援する手立ての検討が必要であると言えるであろう。

## 5. まとめ

今回、一般就労等を目指す生徒を対象として取り組んだ各作業の考察から、生徒が活動や指導、支援を通して、一人で作業を進め、指示を理解し、道具の使い方を身に付けていく姿を確認することができた。進路実現に向けた作業学習の在り方を示すことができたと思われる。また、手順表を活用する力、判断する力、考える力の指導と支援の検討が必要なことを明らかにすることができた。

この成果と課題を踏まえ、「環境・サービス班」の活動と普段の作業学習を結びつけながら、生徒の進路実現に向けて、より有効な作業学習の在り方について継続して研究を深めていきたい。

## 謝辞

本研究の推進に当たり、農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター教授佐川了先生、助教渡邊学先生、技術専門職員の先生方にはお忙しい中、準備、片付け、指導、支援と丁寧に生徒の実習に対応いただきました。農学部の先生方のご協力に感謝申し上げます。